

康有儀の山本憲に宛てた書簡 (訳注・その四)

The letters of Youyi Kang addressed to Ken Yamamoto

呂 順 長・小 野 泰 教

Juncho RO and Yasunori ONO

凡例

- 1、本稿は前稿「康有儀の山本憲に宛てた書簡 (訳注・その三)」^①に続き、康有儀書簡84通中の23通 (C173-C195) に対して解説と訓読を行い、さらに一部の内容に対して注を加えたものである。すでに前稿までの注に出た人名・事件名などは原則として改めて注を加えないこととし、また書簡の所蔵、康有儀の人物像などに関しても「康有儀の山本憲に宛てた書簡 (訳注・その一)」を参照されたい。
- 2、書簡は基本的に繁体字で書かれているが、一部俗字もあったので、それを正字に改めた。また繰り返し記号 (々) も元の文字に改めた。
- 3、文意により句読点を付けた。割注は () を用いて示した。
- 4、底本に敬意を示すための欠字 (1字か2字分の空白)、平出、擡頭が多く見られるが、それらは省略した。
- 5、原文中の誤字と見られる文字については、その正字を【 】の中に示した。ただし、書き下し文と注ではその正字のみを示した。
- 6、原文にある一部の口語体または省略の表現はそのまま訓み、その意味を振り仮名または〔 〕の中に示した。
- 7、注は原文に付け、それぞれの該当箇所の下線を引いた。
- 8、62-84の順番は前稿の40-61を受けたもので、それぞれ高知市立自由民権記念館の整理番号C173-C195に対応し、62 (C173)、84 (C195) のように示した。ただし、これは必ずしも送信日時の順ではない。
- 9、原文末尾の〈 〉内は封筒の日付または書簡の内容などから判断して、可能な限り各書簡の作成または消印の日付を示したものである。漢数字は旧暦、アラビア数字は新暦を表す。
- 10、ルビは筆者の判断で一部に付けた。

書簡原文と訳注

62 (C173)

敬稟者：午間蒙賜酒，叩謝登樓，不期廢卷而寢，客來又失敬實多，未及陪送，至歉至歉。醒來接諭始覆，遲遲之罪，乞恕乞恕。發譯之事，一任夫子擇其文理佳者為之，不必善書，文佳而下字佳尤妙。所示曾在塾之某君云云，敢求發函約之，則彼此同塾，弟子領益較便，固所樂也。應否先送若干金錢，以便某學長束裝就道之處，統乞惟命是遵。今日擇之太細，他日卓如^②開辦

① 『四天王寺大学紀要』第60号、平成27年9月、第359-378頁。

② 卓如：梁啓超、字は卓如。

譯務，弟子敢求數人，實難苛其選矣。專此恭覆。敬請夫子大人福安。弟子孟卿稟上。八月三十一日。〈1898年8月31日作成〉

敬稟者：午間に酒を賜うを蒙り、叩謝するに樓に登り、期せず卷を廢して〔本を置いて〕寝ねたり。客來りて又た失敬すること實に多く、未だ陪送〔付添いと見送り〕するに及ばず、至りて歉らず至りて歉らず。醒め來りて論を接けて始めて覆し、遅遅たるの罪、恕されんことを乞う恕されんことを乞う。發譯する〔訳者に翻訳資料を配る〕の事は、夫子に一任すれば其の文理の佳き者を擇びて之を為さしめよ、必ずしも書を善くせずして、文佳くして下字〔翻訳速度〕佳くば尤も妙たり。示す所の曾て在塾せし某君云云は、敢えて函を發して之を約せられんことを求む。則ち彼此塾を同じくし、弟子益を領するに較や便ありて、固より楽しむ所なり。應に先に若干の金錢を送りて、以て某學長〔塾の長輩〕裝を束ねて道に就くに便にすべきや否やの處は、統て惟だ命に是れ遵うことを乞うのみ。今日之を擇ぶこと太だ細かならば、他日に卓如譯務を開辦し、弟子敢えて數人を求むるも、實に其の選びを苛しくし難し。専ら此に恭みて覆す。敬みて夫子大人に福安を請う。弟子孟卿稟し上る。八月三十一日。

63 (C174)

敬稟者：蒙夫子携同往遊，復勞瑣瑣開數，接閱為之愧甚。數無不合，但恐侵入夫子所帶之金錢耳。謹將來單繳呈，餘銀謹收。肅此。謹請夫子大人福安。弟子孟卿稟上。

夫子往返不以傘蔽熱，頃無恙歟。乞攝調。謹又稟。〈1898年8月頃か〉

敬稟者：夫子携えて同に遊びに往きたるを蒙り、復た瑣瑣として開數〔金額開示〕するを勞し、接けて閱して之が為に愧ずること甚だし。數は合わざる無く、但だ夫子の帶ぶる所の金錢を侵入するを恐るのみ。謹みて來單〔送られてきた旅費清算書〕を將て繳呈〔返送〕し、餘銀を謹みて收む。肅みて此にす。謹みて夫子大人に福安を請う。弟子孟卿稟し上る。

夫子往返するに傘を以て熱を蔽わず、頃恙無しや。攝調せられんことを乞う。謹みて又た稟す。

64 (C175)

肅覆者：《燕山楚水紀遊》，一送橫濱大同學校，徐君等讀後加封寄京，一附神戸《東亞報》即刻印行，未有將此《紀遊》逕寄上海大同書局也。昨據《東亞報》函覆，本局譯成各書，各處催閱，印刷甚忙，未遑及此，請緩一步即印等語。而上海大同書局係從弟幼博^①為總辦，因長素以事命之上京，暫留未返。昨接幼博京函，謂月內可歸滬。弟子以從弟未抵滬，恐所托非人，故未將此書付去。似此情形，則日間未能印刷上石。承諭新檢出二三誤脫，乞從容另紙記之，（畧半月之期尚可更正）以便將來付去改正。此書應交滬大同局或神戸《東亞報》局，刊行之處，請酌

① 幼博：康有溥（1867-1898）、字は広仁、号は幼博。書簡C113注「広仁」を参照。

示遵行。西人論孔聖一書^①，知譯已過半，不日脱稿，樂甚慰甚。又承諭，商此書譯畢當譯《地文學》如何等論，竊讀《地文學》一書甚佳，惟敝邦於此種書已譯行多種，其未備者、新出者，其基督教徒又譯印而補之。今《地文學》佳而畧舊，去今十七年，中間遺畧亦多，譯印恐不暢銷。弟子日前已函問大同書局，將已譯之書，將其目錄抄一份來，以免重譯，而易辦事。十日內必覆。乞夫子先完其（西人所論）孔聖一書，弟子再行稟商，是否有當，伏乞鈞裁。專此。敬請夫子大人福安。弟子孟卿謹上。八月五燈。

弟子有致橫濱、神戸各一函，敢求分付下女投交信箱。弟子叩托。〈1898年8月5日作成〉

肅覆者：『燕山楚水紀遊』は、一は横濱大同學校に送り、徐君等讀みて後に封を加え京〔北京〕に寄せ、一は神戸の『東亞報』に附して即刻印行するも、未だ此の紀遊を將て逕ちに上海の大同書局に寄する有らざるなり。昨に『東亞報』の函覆に據らば、本局の譯成せし各書は、各處より閱するを催され、印刷甚だ忙しく、未だ此に及ぶに違あらず、請うらくは一步を緩め〔すこし間を置いて〕即ち印する等語。而して上海大同書局は從弟の幼博總辦為るに係り、長素事を以て之に命じて上京せしめたるに因り、暫く留まりて未だ返らず。昨に幼博の京よりの函を接け、月内に滬〔上海〕に歸るべしと謂う。弟子從弟未だ滬に抵らず、托する所人〔適任者〕に非ざるを恐るるを以て、故に未だ此の書を將て付去〔送付〕せず。此くの似き情形により、則ち日間に未だ印刷・上石〔出版〕する能わず。論を承りて新たに二三の誤脱を検出せしとのよし、從容として另の紙に之を記されんことを乞う、（畧半月の期尚お更正すべし）以て將來付去して改正するに便ならしむ。此の書は應に滬の大同局或いは神戸の東亞報局に交すべきか、刊行の處は酌み示されんことを請い、遵行す。西人の孔聖を論ずる一書、譯已に半を過ぎ、日ならずして脱稿するを知り、樂しむこと甚だし慰むること甚だし。又た論を承り、此の書を譯し畢えて當に『地文學』を譯すべきを商るは如何等論、竊かに『地文學』の一書を讀み甚だ佳くも、惟だ敝邦は此の種の書に於いて已に譯行すること多種にして、其の未だ備わらざる者、新たに出でし者は、其の基督教徒又た譯印して之を補えり。今の『地文學』は佳くも畧舊く、今を去ること十七年、中間に遺畧も亦た多ければ、譯印するも恐らく暢やかに銷けず。弟子日前に已に大同書局に函問し、已に譯せしの書を將て、其の目錄を將て一份を抄して付來し、以て重譯を免れ、而して事を辦じ易くす。十日の内必ず覆すれば、乞うらくは夫子先に其の（西人の論ずる所の）孔聖一書を完うして、弟子再び稟商を行わんことを。是れ當有るや否や、伏して鈞裁を乞う。專ら此にす。敬みて夫子大人に福安を請う。弟子孟卿謹みて上る。八月五燈〔五日夜〕。

① 孔聖一書：西洋人が著した孔子に関する書物で、山本憲が翻訳したと見られる。ただし、その後出版されたかどうかは不明で、現存する山本憲の蔵書目録などに類似する内容の書名が見当たらない。書簡C185には西洋人学者が著した『孔夫子』という書物への言及がある。同一の書物のことであろうか。なお、西洋人が執筆した文章を翻訳編纂した『孔夫子』と題する書物として、赤池金三郎纂訳『孔夫子』（上原書店、1893年）があげられる。該書はレッグ（James Legge 1815-1897）など複数の西洋人の孔子に関する論評を日本語に翻訳し編纂したものである。出版時期なども考慮すると、『孔聖一書』『孔夫子』は、該書を指しているのかもしれない。

弟子 横濱と神戸とに致す各一函有り、敢えて下女に分付けて信箱〔郵便差出箱〕に投交するを求む。弟子叩いて托す。

65 (C176)

夫子之道德仁行、聞之於舍姪同文^①稱述、敬知一二。此來恭讀夫子之遊記、旁論時局、其周流我國、救世與傳道之苦心、閱其宗旨志趣、曷勝欽佩。拜讀之餘、已稟請借刷百十、即寄敝國分送、以擊發士心。今細思、如能以此書寄售敝國固佳、(寄上海大同譯書局或時務報館、能行之各省) 否則敬請給賜一部、由弟子再印其點石圖^②、(約印此畫金一圓) 以寄上海、翻印賤售、俾士人通購而讀之、其亦救世之一大助力也。抑更有請者、夫子平日之議論文章、必有成書、亦敢請寄售。弟子日前欲知尊狀、求教於難波^③張量^④兩學長、連日未蒙其詳述。敢求轉飭二君、擇其偉者賜述一二、此亦弟子所當敬聞也。敝國政治不修、宗教日失、大有滅種為奴之懼、奈何奈何。夫子必有以教之。專此稟安。弟子孟稟。(1898年7月頃か)

夫子の道德仁行は、之を舍姪同文の稱述するに聞きて、敬みて一二を知る。此來恭みて夫子の遊記を讀み、旁らに時局を論じ、其の我國を周流し、世を救うと道を傳うるとの苦心、其の宗旨志趣を閱して、曷ぞ欽佩に勝えん。拜讀するの餘、已に借りて百十を刷るを稟請し、即ちに敝國に寄せて分送し、以て士心を擊發す。今細かに思うに、如し能く此の書を以て敝國に寄せて售れば固より佳く、(上海の大同譯書局或いは時務報館に寄せれば、能く之を各省に行わしめん) 否ずんば則ち敬みて一部を給え賜うを請う。弟子に由りて再び其の點石圖を印り、(約此の畫を印るは金一圓) 以て上海に寄せ、翻印して賤く售り、士人をして通購して之を讀ましめば、其れ亦た世を救うの一大助力なり。抑更に請う者有り、夫子の平日の議論文章、必ず成書有れば、亦た敢えて寄せて售るを請う。弟子日前に尊狀を知らんと欲し、教を難波と張量の兩學長に求め、連日未だ其の詳述を蒙らず。敢えて轉いで二君に飭め、其の偉者〔先生のすぐれたところ〕を擇びて一二を賜述するを求む、此れ亦た弟子の當に敬聞すべき所なり。敝國は政治修まらず、宗教日に失われ、大いに種を滅し奴と為るの懼れ有り、奈何せん奈何せん。夫子必ず以て之に教うる有らん。專ら此に安を稟す。弟子孟稟す。

66 (C177)

貴皇上臨幸大阪閱大操^⑤、數年一舉、誠盛典也。過此以往、欲觀不能、且演場去此不遠、弟子昨日原議稟請夫子前往縱觀、以增眼福。異日雖有寫真、不如即其實境也。因接友信、約有所候、且昨早及午又接舍弟世姪等信、今日午後徐君^⑥不來、弟子必須往神一面、且送知友返粵之行、

① 同文：康同文、字は介甫。書簡C111の注「介甫」を参照。

② 點石圖：石版印刷の挿絵。

③ 難波：難波龍介。書簡C132注「難波」を参照。

④ 張量：張田量一のことか。書簡C132注「張田」を参照。

⑤ 大操：1898年11月に大阪で行われた陸軍特別大演習。

⑥ 徐君：徐勤。書簡C113注「徐君勉」と書簡C183を参照。

則明早乃能隨夫子往觀，庶不負此盛舉也。

再者，日前面述《清議》之設，原流落此間諸同志集資以成，而寒士之力，湊欸無多，職司其事，擬俸亦薄，更有從事撰述不受俸者。（敝國禁壓報社，報不流通，明知虧本而為之者）頃弟子家產沒官，又在旅途，弟姪輩^①因請為該報翻譯，以漸【暫】濟目前，而初學數月，驟然從事於譯，猶為無米之炊。且辛【薪】金太廉，即以全數以酬助我者，而心仍有未安。故日前稟商夫子，夫子命以就之，而未敢遽承也。今彼輩來信如此，徐君亦不久而晤面，其實情又如此。夫子試為弟子決之。順將舍弟等信呈覽。專此。敬請夫子大人崇安。弟子孟卿謹稟。十一月十六日

再者，昨晚松村鹿君來索舍弟長素之新舊詩稿，弟子向不存此物，雖塾友有存其舊作，亦一閱而了。舍弟昨贈夫子之詩，雖不大工，亦可刊之報章，以為好事者之一覽焉，亦可使人知其情也。如何如何？乞酌之。（1898年11月16日作成）

貴皇上的大阪に臨幸し大操を閲せらるるは、數年に一舉にして、誠に盛典なり。此を過ぎて以往、觀んと欲するも能わず、且つ演場は此を去ること遠からず、弟子昨日^{もともと}原^{はか}議りて夫子に稟請して^{しようかん}前住し、以て眼福を増す。異日寫真有りと雖も、其の實境に即くに如かざるなり。友の信^{てがみ}を接けたるに因り、約して候つ所有り、且つ昨の早及び午^{あさひる}又た舍弟と世姪等の信を接け、今日の午後徐君來らず、弟子必ず須らく神〔神戸〕に往きて一たび面し、且つ知友の粵〔広東〕に返るの行を送るべし。則ち明早乃ち能く夫子に隨いて觀に往き、庶わくは此の盛舉に負かざるならんことを。

再者、日前に面述せし清議〔清議報〕の設けは、原此間に流落せる諸同志集資して以て成るも、而れども寒士の力なれば、湊めたる欸〔金額〕は多きこと無く、其の事を職司するものは、擬する俸も亦た薄く、更に撰述に従事するも俸を受けざる者有り。（敝國は報社〔新聞社〕を禁壓し、報〔新聞〕は流通せず、明らかに本虧くるを知るも之を為す者なり）頃^{このころ}弟子は家産官に沒せられ、又た旅途に在り、弟姪輩因りて該報の為に翻譯するを請い、以て暫く目前を濟う。而れども初めて數月學びて、驟然として譯に従事するは、猶お米無きの炊きを為すがごとし。且つ薪金〔給料〕太だ廉く、即い全數を以て以て我を酬助するも、心に仍お未だ安からざる有り。故に日前に夫子に稟商し、夫子命じて以て之に就くも、未だ敢えて遽かに承らざるなり。今彼輩の來信は此くの如く、徐君も亦た久しからずして晤面し、其の實情も又た此くの如し。夫子試みに弟子の為に之を決められよ。順に舍弟等の信^{てがみ}を將て呈覽す。專ら此にす。敬みて夫子大人に崇安を請う。弟子孟卿謹みて稟す。十一月十六日

再者、昨晚松村鹿君來りて舍弟長素の新舊詩稿を索め、弟子向に此の物を存せず、塾友其の舊作を存する有りと雖も、亦た一たび閲して了る。舍弟昨に夫子に贈るの詩、大いには工ならずと雖も、亦た之を報章に刊して、以て好事者の一覽と為すべし。亦た人をして其の情を知らしむべきなり。如何如何。之を酌むを乞う。

① 弟姪輩：康有為と康同文を指す。

67 (C178)

敬稟者：日前稟稱四條暇一遊，大樂，其病亦痊。弟子欲擇佳勝續遊，以約中松君及夫子之親友一同其樂，況亦多應拜識者。未見批示，得毋恐弟子浪遊荒業，抑或以旅次不可浪費歟。然中松君招呼弟子一遊，而費至十金八金，則答之禮也。此亦弟子咄嗟可辦，不假思索，故有前請。師弟至親，幸毋為弟子吝惜小費以失儀。今慮夫子未有函約中松君，故弟子謹備一函，乞填住址飭寄為禱。自此以後，餘暑退盡，學業小成，乃敢小遊。イロハ傍注之漢字已抄一份，合將前會話二書繳呈備查。專此。恭請夫子大人福安。弟子孟卿謹稟。八月廿四午。

《燕山楚水紀遊》、《聖教書》二種，日間加封妥寄上海刊行。合并稟知。弟子又稟。〈1898年8月24日作成〉

敬稟者：日前に稟稱せし四條暇の一遊は、大いに楽しみ、其の病も亦た痊ゆ。弟子佳勝を擇びて續遊せんと欲し、以て中松君及び夫子の親友を約して一同に其れ楽しむ、況んや亦た多いに應に拜識すべき者をや。未だ批示を見ず。弟子浪遊して業を荒するを恐るるを得るや^な母きや、抑も或いは旅次にて浪費すべからずと^{おも}以えるか。然れども中松君 弟子を招呼して一遊し、而して費は十金八金に至り、則ち之に答うるは禮なり。此れ亦た弟子咄嗟に辦ずべく、思索を假りず、故に前の請い有り。師弟は至親なり、^な幸わくは弟子の為に小費を吝惜して以て儀を失うこと^な母からんことを。今 夫子未だ中松君を函約すること有らざるを慮り、故に弟子謹みて一函を備え、乞う住址を填めて飭寄する〔送らせる〕を禱りと為す。此より以後、餘暑退き盡し、學業小成して、乃ち敢えて小遊す。イロハの傍注の漢字は已に一份抄し、^あ合に前の會話の二書を^{もつ}將て繳呈〔返却〕して^{しら}査ぶるに備うべし。専ら此にす。恭みて夫子大人に福安を請う。弟子孟卿謹みて稟す。八月廿四午。

『燕山楚水紀遊』、『聖教書』の二種は、^{ちかきうち}日間に封を加えて^{やす}妥らかに上海に寄せて刊行す。^あ合^あ併せて稟知す。弟子又た稟す。

68 (C179)

敬稟者：承諭知書肆致有生理、植物二書來，其餘隨有隨交，此可從容而譯，若稍遲交，亦無礙事。設他日前此二書譯畢，則買舊本補譯，亦無不可，求其備耳，乞無介意。孔聖一書，弟子讀而數之，合計三萬一千零字，夫子已費如此精神，加以內中引駁，其苦心可想。弟子等感佩萬分，其書內中有人地等假名，宜易漢字，乞便中檢出伊呂波，傍注漢字，給鈔一分，以便更正發鈔發刊為禱。謹將生理、植物二書呈繳，其餘書肆再交之書，亦乞存之夫子處可也。日前接神戶信，知有親友來自香港，送有土產與弟子，函問應否付來。查單內所列有波羅、荔支，為此地鮮有者，囑其付來。其小菜一包，是弟子所購（其價極廉），雖畧有異味，而性屬燥品，若多食亦可厭耳。廣東地近熱帶，生菓最為美備，價廉味高。若罐頭之物，只存其形而失其美味。弟子生長廣東，多食此物，故數見不鮮。今聊備一物，用以借敬於我夫子，乞恕其褻瀆而賞收之，幸甚幸甚。專此。敬請福安。弟子孟卿謹稟 〈1898年8月頃か〉

敬稟者：諭を承り書肆より生理、植物の二書有りて致し來たり、其の餘は有るに隨いて^{わた}交す

に隨う〔到着次第に渡す〕を知れり。此れ從容として譯すべく、若しくは稍遅れて交すも、亦た事を礙ままたぐること無し。設もし他日に前の此の二書を譯し畢えれば、則ち舊本を買いて補譯するも、亦た不可無し、其の備わるを求むるのみ、意に介すること無きを乞う。孔聖の一書、弟子讀みて之を數うれば、合計三萬一千零字、夫子已に此くの如き精神を費やし、加うるに内中の引駁〔引用と批判〕を以てし、其の苦心は想うべし。弟子等は感佩すること萬分このうえなし。其の書の内中に人〔人名〕と地〔地名〕等の假名有り、宜しく漢字に易うべし。便中に伊呂波を検出して漢字を傍注し、一分鈔し給うを乞い、以て更正して發鈔し發刊するに便ならしむるを禱りと為す。謹みて生理、植物の二書を將て呈繳し、其餘の書肆より再び交さるるの書も、亦た乞う之を夫子の處に存して可なり。日前 神戸てがみの信を接うけ、親友有りて香港より來たりしを知り、土産有り送りにて弟子あたに與えんとするも、應に付來すべきや否やと〔その親友は〕函問する。査するに單内の列する所に波羅・荔支バイナップル レイシ有り、此の地に有ること鮮なき者すく為り。其れに付來せよと囑す。其の小菜の一包は、是れ弟子の購う所なり。（其價は極めて廉し）畧異味有りと雖も、而れども性は燥品に屬し、若し多く食えば、亦た厭くべきのみ。廣東は地熱帯に近く、生菓最も美備なり。價廉く味高し。罐頭〔缶詰〕の物の若こときは、只だ其の形を存するのみにて、其の美味を失う。弟子は廣東に生長すれば、多く此の物を食ひ、故に數しばしば見すくて鮮なからず。今聊か一物を備え、用いて以て借りて我が夫子に敬す。其の藝瀆ゆるを恕して之を賞收せられんことを乞う。幸甚幸甚たり。專ら此にす。敬つつしみて福安を請う。弟子孟卿謹もうみて稟す。

69 (C180)

敬稟者：承諭恭聆，弟子以中嶋^①君是初相識之友，亦塾内之舊人，厚情款款，不可忘也。今以其寓止計之，頃刻飛函，亦需明午乃達，是則下周然後指地約之，或即以電話約之可否？則明日箕山之遊，弟子自應備費以周旋，隨伴夫子以遊，不必另擾東道主人也。專此。謹請夫子大人福安。弟子孟卿叩稟（1898年8月頃か）

敬稟者：承りし諭は恭しく聆けり。弟子は中嶋君は是れ初めて相識る〔初対面〕の友にして、亦た塾内の舊人たるを以て、厚情は款款にして、忘るべからざるなり。今其の寓止〔住所〕を以て之れを計る頃刻函を飛すとも、亦た需すべからく明あすの午ひるに乃ち達すれば、是れ則ち下周然る後に地を指して之を約さん。或いは即ち電話を以て之を約するは可なるや否や。則ち明日の箕山〔大阪箕面市〕の遊びは、弟子自ずから應に費を備えて以て周旋すべく、夫子に隨伴して以て遊び、必ずしも另べつに東道の主人わづらを擾わさざるなり。專ら此にす。謹みて夫子大人に福安を請う。弟子孟卿ぬかづ叩もういて稟す。

70 (C181)

敬稟者：上海、廣東點石^②，比此間其價尤平，得夫子一二原本，即可分寄照辦。弟子仍有點

① 中嶋：中嶋掠蔭。書簡C151注「中嶋君掠蔭」を参照。

② 點石：石版印刷のこと。

石印書局在上海及廣東，至神戸《東亞報》，亦刊行要書。弟子擬將此書印刷數千部賤沽，與時務、知新、東亞各報附派，使我國士夫讀而生愧，發其熱心，庶免我夫子周流傳道之苦，亦冀士氣為之一振。嗚呼，我夫子其亦不負孔聖矣。炎暑退時，飭買檀木，乞分付按橋本^①氏來信之尺寸照買為合，窻取木之身畧瘦而不肥，或可價安，若尺寸不符，恐不適於用，不必拘圓半與二圓之價，設照此尺寸，其銀不足，當照補足便是。專此。敬請大安。弟子孟卿謹稟。

同是長短之木，以其徑之闊窄而異其價也，則其寄費當在二圓內矣。又稟。乞代呈夫子。〈1898年8月頃か〉

敬稟者：上海、廣東の點石は、此間に比べて其の價尤も平らかなり。夫子の一二の原本を得れば、即ち分ちて寄せて照辦〔指示通り処置する〕すべし。弟子仍お點石の印書局の上海及び廣東に在る有り、神戸の『東亞報』に至りても、亦た要書を刊行す。弟子擬するに此の書を將て數千部印刷して賤く沽り、時務・知新・東亞の各報と與に附派〔配分〕し、我國の士夫をして讀みて愧じを生じ、其の熱心を發せしめ、庶わくは我が夫子の周流して道を傳うるの苦を免れしめ、亦た士氣之れが為に一振するを冀う。嗚呼、我が夫子其れ亦た孔聖に負かざらんや。炎暑退く時、飭めて檀木を買わしむ。乞うらくは分付けて橋本氏の來信の尺寸に照して買うを合しと為すことを。窻ろ木の身畧瘦せて肥えざるを取れば、或いは價を安くすべきも、若し尺寸符さざれば、恐らく用に適さず。必ずしも圓半と二圓の價に拘わらず、設し此の尺寸に照らして、其の銀足らざれば、當に照らして補足すべき便是。專ら此にす。敬みて大安を請う。弟子孟卿謹みて稟す。

同じく是の長短の木も、其の徑の闊窄を以てして其の價異なるなり。則ち其の寄費〔送料〕當に二圓の内に在るべし。又た稟す。乞うらくは代りて夫子に呈せられんことを。

71 (C182)

敬稟者：數日來蒙夫子費著作之時與引道之苦，攜弟子為郊郭之遊，遇名跡以詳述，值佳境而周旋，師弟之情，有加無已。自愧未及稍事履杖之勞，反累長者沿途之頻顧，其當何以報高厚之情於萬一也。撫心滋愧，其當罪死。自度為日甚長，願夫子自後意樂出遊，乃命弟子以隨行（不可因弟子而費時勞步），庶不礙我夫子之事也。（或三日五日一出遊而可）夫子其權衡之。

昨閱《朝日報》，有弟子入塾一事，神阪之清商俗人閱之必以為笑。蓋以日暮途遠，無可為之秋也。（三十四十其無藝，則也已矣；四十五十無聞，亦不足畏矣。弟子在神戸請教於橋本氏，多被人笑，故云。）其有識與同志者，又當能鼓舞其後人，則有此一報也。而我清人之陸續來學者，其必多矣。該報社員詢以國事，幸未實告。然我清之事無可為，亦無可救。其惟有譯宗教與有用之書以刊行（如廢物利用之書之術，我國人急宜專學。夫子為我國計，以工補救之謂也），使國人知其宗旨，開其見識，則志趣向上，此為第一義歟。茲將命譯之報繳呈，暇時斧削之，其語尾或助詞未見例者，乞批解之。專此。敬請夫子大人午安。乞恕草率。弟子孟卿叩頭謹上。七月廿二。

① 橋本：橋本海関のことか。書簡C111注「橋本氏」を参照。

今日所譯段數太多，必未能曲合文義，全改之則費神，乞留為明日乃削為幸。謹再稟。〈1898年7月22日作成〉

敬稟者：數日來 夫子の著作〔著作〕の時と引道〔道案内〕の苦を費やすを蒙り、弟子を攜えて郊郭の遊びを為し、名跡に遇いては以て詳述し、佳境に値りては周旋し、師弟の情、加わること有りて已む無し。自ら愧ず、未だ稍も履杖〔長者〕の勞に事うるに及ばず、反って長者沿途に頻りに顧るを累わすを。其れ當に何を以てか高厚の情の萬の一に報ゆべきや。心を撫で滋愧じ、其れ罪は死すに當る。自ら度るに、日を為すは甚だ長く、夫子自後意樂んで出遊せば、乃ち弟子に命じて以て隨行するを願ひ、（弟子に因りて時を費やして勞歩すべからず）、庶わくは我が夫子の事を礙げざることを。（或いは三日か五日に一たび出遊して可なり）夫子其れ之を權衡せられん。

昨に『朝日報』を閲し、弟子の入塾せし一事有り、神阪の清商俗人 之を閲て必ず以て笑いと為す。蓋し「日暮れて途遠し」を以て、為すべきこと無きの秋なり。（三十四にして其れ藝無くんば則ち已むなり、四十五にして聞ゆること無くんば亦た畏るに足らざるなり。弟子神戸に在りて橋本氏に教えを請ひ、多く人に笑わる、故に云う。）其の有識と同志たる者、又た當に能く其の後人を鼓舞すべく、則ち此の一報有るなり。而して我が清人の陸續と學びに來る者は、其れ必ず多し。該報の社員詢ねるに國事を以てし、幸い未だ實に告げず。然れども我が清〔清国〕の事は為すべきこと無く、亦た救うべきこと無し。其れ惟だ宗教と有用の書を譯して以て刊行すること有るのみ。（廢物利用の書またはその術の如きは、我が國人宜しく専ら學ぶべし。夫子我が國の為に計りて、工を以て補救するの謂いなり）、國人をして其の宗旨を知り、其の見識を開かしめ、則ち志趣向上す、此れ第一義たり。茲に譯するを命ぜられし報〔新聞〕を將て繳呈〔提出〕すれば、暇時に之を斧削し、其の語尾或いは助詞の未だ例に見えざる者は、之を批解せらるるを乞う。専ら此にす。敬みて夫子大人に午安を請う。草率を恕されんことを乞う。弟子孟卿 叩頭して謹みて上る。七月廿二。

今日 譯する所の段數 太だ多ければ、必ずしも未だ文義に曲合する能わず。全て之を改めれば則ち神を費やさん、乞うらくは留めて明日に乃ち削ると為すを幸いと為す。謹みて再び稟す。

72 (C183)

徐勤，別字君勉，三水縣人，即弟子之隣縣人也。今年約二十五六歳。曾遊學於舍弟^①之門五六年。此人志趣頗佳，尚氣節，好學，愛才，能傾家養士，富人也。前曾在上海強學會勸辦撰述會，為御史楊崇伊^②奏劾，電聞為之吐血。是時弟子寄居會内，所目擊也。舉此一端可見其為人。現在橫濱大同學校掌教清商子弟，館内畧百餘人云。本月十七八前後，大阪朝日報有橫濱居留地大同學校一段畧論之，謂徐君不勉有儒生之見，即其人也。其來弟子信云，自恨眼疾，又欲為專

① 舍弟：康有為を指す。

② 楊崇伊：字は幸伯、江蘇常熟の人。光緒六年（1880）の進士。1895年に御史となり、1896年1月に強学会を取り締まるよう上奏した。

門之學、有與弟子同居之意、蓋亦欲寄於門牆之下也。弟子頃欲覆其信、彷彿不能盡記、求將昨日彼來弟子之信二封擲還為望。(1898年8月頃か)

徐勤、別字は君勉、三水縣の人、即ち弟子の隣縣の人なり。今年約二十五六歳なり、曾て舍弟の門に遊學すること五六年。此の人は志趣頗る佳く、氣節を尚び、學を好み、才を愛し、能く家を傾けて士を養い、富人なり。前に曾て上海強學會に在りて撰述會を勸辦し、御史の楊崇伊に奏劾せられ、電聞して之の為に吐血せり。是の時弟子會内に寄居し、目撃せし所なり。此端を擧げて其のひととなり為人を見るべし。現横濱大同學校に在りて清商の子弟を掌教し、館内にほぼ百餘人と云う。本月十七八前後、『大阪朝日報』に横濱居留地大同學校の一段有り之を畧論して、徐君勉めずして儒生の見有りと謂う、即ち其の人なり。其の弟子に來たりしてがみ信に云う、自ら眼疾を恨み、又た専門の學を為さんと欲し、弟子と同居するの意有りと、蓋し亦た門牆の下に寄せんと欲するなり。弟子頃其のこのころ信に覆せんと欲するも、彷彿として盡くは記ゆること能わず、求むらくは昨日彼の弟子に來たるのてがみ信二封を將て擲還〔返還〕せられんことを望みと為す。

73 (C184)

敬稟者：日來承訓之讀課、其語脈之解剖、語（語尾變化）助（助字辨漢之有無）之互分、批注詳明、了然心目。弟子未習英文、亦無力於英文。夫子引例、不必旁借、以省筆墨之勞。但於和文語句中、其語尾變化、遇有新例、伏乞從新施以符號、詳其所以。從此日積、由淺而深、於願已足。所發之讀課、已別冊敬錄。今將每日之課成冊統呈、以便夫子暇時發課照書。此冊不必析篇給發、以便錄課時流覽而避重例也。弟子自能另錄而捧誦也。弟子孟卿謹稟。(1898年8月頃か)

敬稟者：日來承訓ちかころおしえを承るの讀課、其の語脈の解剖、語（語尾變化）助（助字を漢〔漢字〕に辨ずるの有無）の互分、批注は詳明にして、心目に了然たり。弟子未だ英文を習わず、亦た英文に力無し。夫子の例を引くは、必ずしも旁借せず、以て筆墨の勞を省け。但だ和文の語句中に於いて、其の語尾變化、新例有るに遇えば、伏して乞うらくは新に従いて施すに符號を以てし、其の所以を詳らかにせんことを。此れより日に積み、浅き由りして深くなれば、願いに於いて已に足る。發する所の讀課〔読解資料〕、已に冊を別けて敬つつしみて録す。今毎日の課を將て冊を成し統べて呈し、以て夫子暇時に課を發し照書〔抄録〕せしむるに便ならしむ。此の冊は必ずしも篇を析さいて給發せず、以て課を録す時に流覽して重例を避くるに便ならしむるなり。弟子自ら能く另べつに録して捧誦するなり。弟子孟卿稟し上もう たてまつる。

74 (C185)

敬稟者：今日略徵逐、以故所譯之文、其虛助實活語尾^①等字、除已知之外、未遑詳查辭典、

① 虛助實活語尾：「虚」は虚字、すなわち實際上の意義を表さず、ただ文の構成を助ける働きをする品詞、「助」は助詞、「實」は実字、すなわち具体的な意義を持つ品詞、「活」は動詞の活用、「語尾」は動詞の語尾を、それぞれ指す。

僅意譯二條以塞責。此二條是夫子所選以命譯，或内中有新見之例，未經夫子批解者，乞便改而注之，俾奉為法則，幸甚幸甚。十五日所選之報未譯，留為明日十七日之課，合并稟聞。弟子孟卿叩上。

敬再稟者，昨晚承示歐州學者著作《孔夫子》^①一書，夫子之意，欲譯出以正其謬，而轉示敝邦士夫云々。事關宗教，此舉極要極美，敢乞暇時以譯之，俾得刊行。敝邦士夫之亡教也久矣。觀《東亞報》第二三兩冊所論，畧知其概，有心世道者，其亦可哀也乎。近讀夫子之文，雖段簡短篇，寓意甚深，無不關乎教宗國體，應刊行者尚多。其外如貴邦人之翻譯歐州各書，或有關乎此類與時務者，若夫子暇時能抽一二刻以譯之，積久成冊，可以刊行。每千字應酬勞費（現大橋氏^②每千字五角，橋本氏每千字六角。夫子之文字極佳，不在此凡人之例），乞示知，以便弟子轉知前途照送。夫食力者士之常，而以譯刊代傳道，比之授徒及每日所講，其功豈不更勝萬萬倍哉。願夫子細思，其俯諾之，幸甚幸甚。專此。敬請晚安。弟子孟卿叩。

《孔夫子》（西人所著）一書，謹照繳呈，乞督收。（1898年8月頃か）

敬稟者：今日略徴逐し、故を以て譯する所の文、其の虛助實活語尾等の字、已に知るを除くの外、未だ辭典を詳査するに違^{いとま}あらず、僅かに二條を意譯して以て責めを塞ぐ。此の二條は是れ夫子の選びて以て譯を命じたる所にして、或いは内中に新たに見るの例有りて、未だ夫子の批解を経ざる者、乞うらくは便ち改めて之に注し、奉じて法則と為さしめれば、幸甚幸甚たり。十五日に選ぶ所の報は未だ譯さず、留めて明日十七日の課と為す、合并せて稟知す。弟子孟卿叩いて稟す。

敬再稟者：昨晚示を承るに歐州學者『孔夫子』の一書を著作す、夫子の意は、譯出して以て其の謬りを正し、而して敝邦の士夫に轉示せんと欲す云々。事は宗教に關り、此の舉は極めて要にして極めて美なり、敢えて暇時に以て之を譯し、刊行するを得さしむるを乞う。敝邦士夫の教を亡^{うしな}うや久し。『東亞報』第二三の兩冊の論ずる所を觀れば、畧其の概を知り、世道に心有る者は、其れ亦た哀れむべきなるかな。近く夫子の文を読み、段簡短篇と雖も、寓意は甚だ深く、教宗國体に關らざる無く、應に刊行すべき者は尚お多し、其の外、貴邦人の歐州各書を翻譯するが如き、或いは此の類と時務に關わり有る者は、若し夫子暇時に能く一二刻を抽きて以て之を譯せば、久しきを積みて冊と成り、以て刊行すべし。千字毎に應に酬^{むく}ゆるべき勞費は（現に大橋氏は千字毎に五角、橋本氏は千字毎に六角なり。夫子の文字は極めて佳ければ、此の凡人の例に在らず）、乞うらくは示知し、以て弟子照して送るを前途〔先方〕に轉知するに便ならしむ。夫れ食力する者は士の常なり、而して譯刊を以て傳道に代うるは、之を徒に授くること及び毎日講ずる所に比べて、其の功豈に更に萬萬倍に勝らざらんや。夫子の細思せらるるを願ひ、其れ之を俯諾せば、幸甚幸甚たり。專ら此にす。敬みて晩安を請う。弟子孟卿叩いて稟す。

『孔夫子』（西人の著す所の）一書、謹みて照らして繳呈す、督收〔査収〕するを乞う。

① 孔夫子：書簡C175を参照。

② 大橋氏：『東亞報』で翻訳を担当した大橋鉄太郎のこと。書簡C111注「東亞報」を参照。

75 (C186)

敬稟者：承諭，知夫子以弟子欠和為念。弟子實少有外感^①，不敢飽食，寧少食一二餐，似為穩當也。現精神如故，明早可無恙，或明早乃食粥以作飯可也。專此謹稟。敬請崇安。弟子孟卿謹上。〈1898年7月頃か〉

敬稟者：諭を承るに夫子 弟子の和を欠くを以て念と為すを知る。弟子實は少しく外感あり、敢えて飽食せず、寧ろ一二餐食らうを少くは、穩當たるに似たるなり。現に精神は故の如し、明早には恙無かるべし、或いは明早に乃ち粥を食らいて以て飯と作すも可なり。専ら此に謹みて稟す。敬みて崇安を請う。弟子孟卿謹みて上る。

76 (C187)

夫子剖解精詳，引伸觸發，弟子時刻玩味，獲益實多。但性魯質鈍，有貪多無補，食而不化之病。觀所譯報文，有影響之語，可知頃蒙獎勵，自當勤憤【奮】，以報知遇之隆。暇時當另部記味以質疑。今將日課部繳呈，以便暇時補錄一二，不必多也。專此。敬請箸安。弟子孟卿謹上。〈1898年8月頃か〉

夫子の剖解は精詳にして、引伸は觸發し、弟子時刻玩味して、益を獲ること實に多し。但だ性は魯かにして質は鈍く、多きを貪りて補うこと無く、食らいて化せざるの病有り。譯する所の報文を觀れば、影響の語有り、頃獎勵を蒙るを知るべく、自ら當に勤奮して、以て知遇の隆なるに報ゆべし。暇時當に別の部に味き〔不明〕を記して以て質疑すべし。今日課の部を將て繳呈し、以て暇時に一二を補録するに便にし、必しも多からざるなり。専ら此にす。敬みて箸安を請う。弟子孟卿謹みて上る。

77 (C188)

夫子所論甚是。有百折不撓^②之概，足使鄙夫廉，憤夫立志，聞者興起。弟子謹書諸紳，以為做人地步。今日夫子知有某一人，可為夫子“德不孤必有隣”^③之慶。然彼學淺，不足以比肩，但取其志趣耳。謹將尊意函知，無論他日升沉如何，設或為讒中傷，幸歸以奉母，必經上海，而滬離此不遠，當函約其來見夫子，以舒平日之志也。專此請安。弟子孟卿謹上。

弟子今日苦熱，改日乃譯書，合照稟聞。〈1898年8月頃か〉

夫子の論ずる所は甚だ是なり。百折不撓の概き有りて、鄙夫をして廉くせしめ、憤夫をして志を立てしめ、聞く者をして興起せしむるに足る。弟子謹みて諸を紳に書し〔大切なことと

① 外感：風邪のこと。

② 百折不撓：何度挫折しようが屈しないこと。

③ 德不孤必有隣：『論語』里仁篇にある孔子の言葉。道徳のある者は孤立せず、必ず親しい仲間ができてくれるということ。

して銘記し]、以て人を做すの地歩と為す。今日夫子知りて某一人有り、夫子「徳は孤ならず、必ず隣有り」の慶と為すべし。然れども彼の學は浅く、以て比肩するに足らず、但だ其の志趣を取るのみ。謹みて尊意を將て函知し、他日升沉の如何を論ずる無く、^{たと}設い或いは讒の為に中傷さるるも、幸いにして歸りて以て母を奉じ、必ず上海を經、而して滬〔上海〕は此を離るること遠からず、當に其の夫子に來見せんことを函約し、以て平日の志を舒ぶべきなり。専ら此に安を請う。弟子孟卿謹みて^{たてまつ}上る。

弟子今日熱に苦しむ、日を改めて乃ち書を譯す、^{あわ}合照せて稟聞す。

78 (C189)

敬稟者：承諭明日正辰八時乗汽車往遊四條畷觀瀑^①、恩准弟子随行等諭、此固弟子平日所望也。接讀之下、感慰無已。惟弟子日前偶被外感、連日服西藥發表^②之劑、其病已愈十之八九、微有一二分潮熱、於上午見之、當俟一二日即可復元。此行若非約友招呼者、則下一周乃去更妙。若已約友、而又恩准弟子随行、弟子固當追隨履杖也。此間之附近名勝、弟子擬他日炎暑盡退時、敬請夫子携同遍遊之、得無餘望歟。專此謹覆。恭請夫子大人福安。弟子孟卿謹稟。乞代呈夫子。
〈1898年8月21日〉

敬稟者：諭を承るに明日正辰八時に汽車に乗り四條畷に往遊して瀑を觀ん、弟子の随行するを恩准する^{そのこと}等諭、此れ固より弟子の平日に望む所なり。接讀の下、感慰して已む無し。惟だ弟子日前^{たまたま}偶外感を被り、連日西藥の發表の劑を服し、其の病已に愈ゆること十の八九、微かに一二分の潮熱有り、上午に於いて之を見れば、當に一二日俟てば即ち復元すべし。此の行若し友を約し招呼する者に非ざれば、則ち^{つぎ}下の一週に乃ち去くは更に妙なり。若し已に友を約し、而して又た弟子の随行するを恩准せば、弟子固より當に履杖に追隨するなり。此間の附近の名勝、弟子擬するに他日炎暑盡く退く時、^{つし}敬みて夫子に請うて携同し之を遍遊せば、餘望〔過分の望み〕無きを得んや。専ら此に謹みて^{ふく}覆す。恭しく夫子大人に福安を請う。弟子孟卿謹みて稟す。夫子に代呈するを乞う。

79 (C190)

謹具炭敬、伏乞賜収。門生孫康孟卿敬具。〈未詳〉

謹みて炭敬〔冬季に贈るもの〕を^{そな}具え、伏して賜収するを乞う。門生孫康孟卿^{つし}敬みて具ぶ。

80 (C191)

敬稟者：弟子去臘以養病來遊、原舍弟長素等資助一切。初到神戸、仰慕文明、留讀五月、訖無門徑。慕夫子言行可師、以是來學、幸列門牆、滿擬學成乃去。惟自經病後、腦力大衰、旋記

① 瀑：大阪の四條畷にある滝としては、権現の滝や清流瀑布が有名である。

② 發表：体から発汗させることで皮膚や皮下の病因を発散させること。

旋忘、仍勉力向學、不敢以魯鈍改其初心也。旋以敝邦變政以來、手足折傷、同志俱殘、鬱結之餘、久已廢卷。頃橫濱商人志士創一報館^①、以款留逃難諸子。而舍弟將有米英之行、因薦弟子以譯文、少獲資助。今非昔比、為目前計、迫令就之、譯畢寄去、仍可在此留學也。惟近連接來信、以遠譯不便、敦請來濱。而端居數月、以學以食、受恩深重、未忍遽離。雖函問可通、不能自己、且也學業未成、不能從事於譯。雖其間或請教有人、亦不能示人以腹。又因近習普通諸書、以為根底、雖漸困厄、未敢舍己從譯、以礙其功。再四思維、擬乞夫子為代覓人、月譯四萬五千字、每日千五百字、凡十日一寄、由弟子酬以月修十五圓、不知能有其人否。抑其俸過薄、敢乞酌示、以畧增。以上各情、弟子進退維谷、不能自決、用敢商之、惟夫子之命是聽焉。專此。敬請崇安。弟子孟卿謹稟。十一月廿四日。

頃接舍弟來信、囑弟子代請安、順以呈覽其中云云。無聊之極、思恐朝占喜雀、夕卜燈花^②、必無其驗耳。呵呵。夫子前次入京、臨起程時、適同和^③先來塾、攜有五十圓（後聞與商人漸【暫】擲者）問公法於辯護士角谷君^④、而未見也。是時不忍夫子獨行、囑令同和隨役、事後商人以同和手擲五十圓作為捐款。聞之舍弟、今舍弟不欲受其情、函來商還其數。（神戸悞作橫濱。）又前此同和隨役行後、商人望和消息於角谷翁、因別籌款百五十圓伴角谷兩辯護士共三人入京辦事。角谷君與廣東商人頗有交情、則日清協和會^⑤章請多以數紙、由其轉勸清商入會、比弟子較為得力、因弟子向與商人來往之故。是否。乞卓奪之。弟子孟又稟。〈1898年11月24日作成〉

敬稟者：弟子去臘〔臘月〕病を養うを以て來遊し、原より舍弟長素等一切を資助す。初めて神戸に到り、文明を仰慕し、留讀すること五月、訖に門徑無し。夫子の言行の師とすべきを慕い、是を以て來學し、幸いに門牆に列なり、學成りて乃ち去るを滿擬す〔心から願う〕。惟うに病を経て自り後、腦力は大いに衰え、旋いで覚え旋いで忘るも、仍お勉力めて學に向かい、敢えて魯鈍なるを以て其の初心を改めざるなり。旋いで敝邦政を變えて以來、手足は折傷し、同志は俱に残るを以て、鬱結するの餘、久しく已に卷を廢す。頃横濱の商人志士は一報館を創り、以て逃難せる諸子を款留す。而して舍弟將に米英の行有らんとし、因りて弟子を薦むるに文を譯するを以てし、少しく資助を獲しむ。今は昔の比に非ず、目前の為に計り、迫りて之に就かしめ、譯畢われれば寄去し、仍お此に在りて留學すべきなり。惟だ近く連りに來信を接け、遠くにて譯するは便ならざるを以て、敦く濱〔横浜〕に來たらんことを請う。而して端居〔閑居〕すること數月、以て學び以て食み、恩を受くること深重にして、未だ遽かに離るるに忍びず。函問通ずべく、自ら已む能わずと雖も、且つ也た學業未だ成らず、譯に従事する能わず。其間或いは教えを請うに人有りと雖も、亦た人に示すに腹を以てする能わず。又た近く普通の諸書を習い、以て根底と為すに因り、漸く困厄すと雖も、未だ敢えて己を捨て譯に従い、以て其の功を礙げず。再四思維し、夫子に乞いて為に代わりて人を覓めんことを擬し、

① 一報館：梁啓超らが横浜で設立した清議報館のこと。『清議報』（1898年12月23日創刊）を発行した。

② 朝占喜雀、夕卜燈花：蒲松年齡『聊齋志異・蕭七』に「晨占雀喜、夕卜燈花」とある。頻繁に占うの意。

③ 同和：康同和。書簡C115注「和兒」を参照。

④ 角谷君：角谷大三元。書簡C111注「東亞報」を参照。

⑤ 日清協和會：書簡C118注「協和會」を参照。

月に四万五千字を譯し、毎日千五百字、凡そ十日に一たび寄せ、弟子由り酬ゆること月修十五圓を以てするも、能く其の人の有るや否やを知らず。抑^{そもそも}其の俸薄きに過ぐれば、敢えて酌示を乞い、以て畧増さん。以上の各情、弟子進退^{こゝろ}維^{きわ}れ谷まり、自ら決する能わず、用て敢えて之を商る、惟だ夫子の命に是れ聽くなり。専ら此にす。敬^{はか}みて崇安を請う。弟子孟卿謹^{つし}みて稟^{もう}す。十一月廿四日。

頃^{このころ} 舍弟の來信を^う受け、弟子に^{たの}囑^めみて代わりて安を^{ついで}請い、順^{うらな}に以て其の中を呈覽せんと云云。無聊の極みにして、思うに恐らくは朝に喜雀を占い、夕に燈花を^{うらな}ト^うも、必ず其の驗無きのみ。呵^か呵^か。夫子前次に入京し、程を起こすに臨む時、適^{たまたま} 同和先ず塾に來りて、攜^もうるに五十圓（後に商人と^{とも}暫く擲〔融通〕する者と聞くと有りて公法を辯護士の角谷君に問わんとすれども、未だ見^まえざるなり。是の時夫子の獨行するに忍びず、同和に囑^な令して隨役せしめ、事後商人同和の手擲するところ〔手持ち〕の五十圓を以て捐款と作為す。之を舍弟に聞けば、今舍弟其の情を受くるを欲せず、函來たりて其の數を還さんことを商る。（神戸は悞^{あやま}りて横濱に作る。）又た此に前^まんじて同和隨役して行く後、商人 和〔同和〕に角谷翁に消息するを望み、因りて別に款百五十圓を籌し〔工面し〕角谷兩辯護士共に三人を伴いて京に入りて事を辦ず。角谷君は廣東の商人と頗る交情有れば、則ち日清協和會章は多^ますに數紙を以てするを請い、其れに由りて轉^{とりつ}いで清商に入會を勸む、弟子に比^やべて較^あ力を得ると為すは、弟子向^まきに商人と與に來往せざるの故に因る。是なるや否や。之を卓奪〔ご判断〕せんことを請う。弟子孟又た^{もう}稟^{もう}す。

81 (C192)

敬稟者：日前在大同學校、奉覆乙函、諒邀垂覽。弟子以孔教會事、函達舍弟外、於一日再入東京、促彼與前途會商、鼓舞倡辦、彼極以為然。且謂日前已力謀數人、尚未如意、當俟日間求見開列數人、與之一謀、再行奉布。此間應酬頗忙、未及函候、囑弟子先為專函道候、合照奉聞。橫濱《清議報》擬定廿三日發行、則各譯文、應於前七日刊印、乃即釘裝成帙。岡山君曾否到塾。或彼以事未來、求夫子於館政之暇、早晚暫代譯之、如期擲下為幸。弟子以舍弟月内有美英之遊、故時出入於東京、叙兄弟之情、亦有瑣事也。如有信到、仍寄大同學校留交弟子。因此間知弟子所在、有信即能寄來、不致耽擱也。小林^①、曾根^②二君、弟子少有暇時、即往求見便是。專此。恭請夫子大人福安。弟子孟卿稟上。太師母、師母處乞代叱名請安。舍弟稟筆請安、不另。十二月二日由東京發（1898年12月2日）

敬稟者：日前大同學校に在りて、乙^{いち}函に奉覆し、垂覽^{もと}を邀めしと諒^{おしはか}る。弟子は孔教會の事を以て、舍弟に函達するの外、一日に於いて再び東京に入り、彼を促して前途〔先方〕と會商せしめ、倡辦せんことを鼓舞すれば、彼極めて以為えらく然りと。且つ謂えらく日前已に力めて數人に謀り、尚お未だ意の如くならず、當に日間^{ちかきうち}に開列するところの數人に求見し、之と與に一たび謀るを俟ちて、再び奉布を行^こうと。此間^こは應酬頗る忙しく、未だ函候するに及ばず、

① 小林：書簡C119注「小林」を参照。

② 曾根：曾根俊虎。書簡C117注「曾根」を参照。

弟子に囑して先ず專函を為して候いを道う。合照せて奉聞す。横濱の『清議報』は廿三日に發行するを擬定すれば、則ち各譯文、應に前七日に刊印し、乃ち即ちに釘装成帙すべし。岡山君は曾て塾に到るや否や。或いは彼事を以て未だ來たらざれば、夫子に館政の暇に於いて、早晚暫く代わりて之を譯さんことを求む、期の如く擲下するを幸いと為す。弟子は舍弟の月内に美英の遊有るを以て、故に時に東京を出入す、兄弟の情を叙ぶれば、亦た瑣事有るなり。如し信到ること有れば、仍お大同學校に寄せて弟子に留交せん。此間は弟子の在る所を知るに因りて、信有れば即ち能く寄せ來たり、耽擱するを致さざるなり。小林、曾根の二君、弟子少しく暇有る時、即ち往きて求見すれば便ち是れなり。専ら此にす。恭しく夫子大人に福安を請う。弟子孟卿稟上る。太師母、師母の處は代わりて名を叱げて安を請うを乞う。舍弟筆を粟けて安を請う、別にせず。十二月二日東京由り發す

82 (C193)

敬肅者：弟子陰曆臘月五日去濱歸國，臨行前謹具五金，以為年敬，旋將其券付上，諒邀賞收。區區不成敬意，聊表寸衷耳。弟子早經月之十四日安抵香港，面晤長素^①無恙，誠以料理出遊南洋^②之事，未遣具稟請安。日間將同出遊，故以奉聞。一俟到南洋後，情形如何，再行稟報也。前稟《清議報》費，統收寄去，然不能全收者，亦任其便，不敢以此累我夫子代拂也。敢乞誌之。弟子已信飭《清議報》同人遵鄙意辦理矣。現小寓香港，他日出遊異地，流連靡定。回憶在阪時，久侍門墻，執經問難，與諸學長旦夕講求古今時局，何其樂耶。未卜何時再逢其會耳，思之黯然。謹呈上小照一枚^③，碌碌無所長，而又強為之喜，想夫子當能洞見其苦衷也。專此謹稟。敬請崇安。太師母、師母二位大人均此請安。弟子康孟卿稟。陰曆十二月廿五日本由港發。(1900年12月25日)

敬肅者：弟子陰曆臘月五日濱〔横浜〕を去り國に歸り、行に臨む前に謹みて五金を具え、以て年敬と為し、旋いで其の券を將て付上す、賞收を邀めしと諒る。區區として敬意と成らず、聊か寸衷を表すのみ。弟子早に經に月の十四日安らかに香港に抵り、長素に面晤して恙無く、誠に南洋に出遊するの事を料理するを以て、未だ具稟して安を請う違あらず。日間に將に同に出遊せんとす、故に以て奉聞す。一たび南洋に到るを俟ちて後、情形の如何は、再び稟報を行うなり。前に『清議報』の費、統收して寄去すると稟すも、然れども全て收むる能わざる者は、亦た其の便に任せ、敢えて此を以て我が夫子を累わして代わりて拂わしめざるなり。敢えて之を誌さんことを乞う。弟子已に『清議報』同人に信飭して鄙意に遵いて辦理せしむ。現に小く香港に寓し、他日異地に出遊し、流連して定まる靡し。阪〔大阪〕に在りし時、久しく門墻に侍り、經を執りて問難し、諸學長と與に旦夕に古今の時局を講求せしを回憶するに、

- ① 面晤長素：康有為は1899年、母の病氣のためカナダから日本經由で香港に戻っている。康有為は香港滞在中、唐才常に勤王の蜂起のための資金援助をしたという。以上、小野川秀美『清末政治思想研究』（みすず書房、1969年）、233頁。
- ② 南洋：康有為はこの後シンガポールに向かっている。康有儀はいったん北京に入った後に南下して、最終的にシンガポールに到着する。C134、C156を参照。
- ③ 小照一枚：写真C4のことを指す。C4の裏面には「光緒二十五年臘月撮影於香港」とある。C134も参照。

何ぞ其れ樂しきや。未だ何時再び其の會に逢うやを卜せざるのみ、之を思えば黯然たり。謹みて小照一枚を呈上す、碌碌として長くる所無し、而して又た強いて之の為に喜ぶ、想うに夫子當に能く其の苦衷を洞見すべし。専ら此に謹みて稟す。敬みて崇安を請う。太師母、師母二位の大人に均しく此に安を請う。弟子康孟卿稟す。陰曆十二月廿五日港〔香港〕由り發す。

83 (C194)

夫子大人尊前：敬稟者、頃以酷暑、薄具冰敬以見意、此弟子之分内事、幸蒙太師母、師母不以為褻而賞收、弟子已喜溢於眉、乃反荷厚賞、弟子何敢克當。然長者賜、自當敬受、惟弟子冷熱衣物具備、且士人尚樸、而在塾又無應酬、即如日前上海付到衣服、且不敢穿、已為明證。敢求太師母、師母收回原物、他日歸國有所賜、必敬受之、弟子今日祇領盛意。伏乞代稟知為禱。并請太師母、師母金安。弟子孟卿敬稟。〈1898年8月頃か〉

夫子大人尊前：敬稟者、頃酷暑を以て、薄か冰敬〔夏季に贈るもの〕を具え以て意を見す、此れ弟子の分内の事なり、幸いに太師母、師母以て褻と為さずして賞收せらるるを蒙り、弟子已に喜び眉に溢るるも、乃ち反て厚賞を荷る、弟子何ぞ敢えて克く當たらん。然れども長者賜えば、自ら當に敬みて受くべし、惟だ弟子は冷熱の衣物具に備わり、且つ士人は樸を尚び、而して塾に在りても又た應酬無く、即ち日前上海より衣服を付到せるも、且つ敢えて穿ざるが如きは、已に明證たり。敢えて太師母、師母に原物を收回するを求む、他日國に歸るに賜う所有らば、必ず敬みて之を受く、弟子今日祇だ盛意を領す。伏して乞うらくは代わりて稟知するを禱と為す。並びに太師母、師母に金安を請う。弟子孟卿敬みて稟す。

84 (C195)

謹具炭敬、伏乞賞収。門生 康孟卿敬呈。〈未詳〉

謹みて炭敬〔冬季に贈るもの〕を具え、伏して乞う賞収せんことを。門生 康孟卿 敬みて呈す。

本稿は、筆者が参加している『山本憲関係書簡』に残る康有為の従兄康有儀等の手紙からみた近代日中交流史の特質」（基盤研究（B）代表者名 吉尾寛 2011年～2015年）の成果の一部である。

